

ボツワナ通信 NO,1

相模原市民の皆様、初めまして！

この度、相模原市市民海外レポーターに任命していただきました井坪圭佑です。青年海外協力隊の柔道隊員として、南部アフリカのボツワナ共和国に派遣されております。任期は、平成25年7月から平成27年7月までの2年間で予定しております。2年間の活動をできる限り紹介していき、生まれ育ったゆかりの地、相模原市に少しでも還元していきたいと考えております。乱筆乱文お許しください。

自己紹介

それでは簡単に自己紹介をさせていただきたいと思います。相模原市南区で生まれ、柔道をしていた父に連れられて緑区相原にある名門相武館吉田道場で5歳の頃から柔道を始めました。物心着いた頃には、すでに柔道着を着ていました。礼節を重んじ、柔道を通じての人間教育を何よりも大切にして指導していただいた先生のお陰で、自然に礼儀作法を道場での稽古を通じて身につけることができました。

大学では4カ国(カナダ、ラオス、ミャンマー、シンガポール)で柔道の指導を経験し、日本で生まれ世界へ羽ばたいていった日本の伝統文化でもある柔道が異国の地で子供から大人まで愛されているのを知って柔道を通じての国際交流に興味が沸きました。

任国紹介

皆さん、ボツワナという国を知っていますか？まず、どこにあるのか知っていますか？おそらくほとんどの人はボツワナの存在を知らないと思います。私も最初は全く知りませんでした。ボツワナは、1966年の独立以後、豊かな天然資源と手堅い経済政策、安定した政治状況や高い教育程度に基づき、世界最高水準の経済成長率を1980年代まで維持し続けました。ダイヤモンドの取引額では、世界最大を誇り、1人あたりのGDPの3分の1がダイヤモンドを占め、マレーシア、アルゼンチン、ルーマニアなどの他の大陸の工業国と同クラスの世界60位前後に位置し、「中所得国」に分類されるなど、アフリカの優等生、お金持ちの国とされています。医療費、教育費無償など堅実な政策を手がけ、良好な経済状況を保ち続けています。



ちなみに、良く間違えられる“ボスニア・ヘルツェゴビナ”とは、全くの無関係です。

到着時の印象

「ボツワナはアフリカじゃない!」「ヨーロッパみたいだ!」等、私の気持ちを安易にさせるような情報を出発前にたくさん聞いて、旅立ちました。

現地訓練中の1ヶ月生活する隊員のドミトリーに到着した初日の夕食の時間帯、ドミトリーが約3時間の停電に襲われました。初日にしてアフリカの洗礼を受けたのです。南アフリカからの電力供給がストップし、ボツワナ全土で電力不足に見舞われているのです。中国が建てた電力発電所に上手く移行ができず、今でも計画停電が続いている状態で、これは大きな不安要素の1つです。

身体が資本の柔道隊員ですので、体力を維持する為に毎日欠かさず、ランニング等をして汗をかいています。ある日曜の朝、いつもの通り、気持ちよく汗をかいてドミトリーに戻り「さてシャワーを浴びよう」と思い蛇口をひねっても水が出てきません。断水です。深刻な水不足という問題も抱えているのです。近くにダムがあるのですが、カラカラに乾ききっています。

日本では、朝になったら、当たり前のようにつけていた朝の明かり。寝起きの電気はうっとうしいと思うこともありました。寒稽古や朝のトレーニングでは起きるのも電気をつけるのも嫌でした。そんな日本では当たり前の様に灯される電気も途上国では本当に貴重な資源であるということを日々感じています。

夕飯時の停電が一番多く、停電、断水に恐れながら炊事を行い、真っ暗闇の中に夕食を食べる事もしばしばあります。いずれも、日本では経験する事のできない貴重な経験です。



現地訓練

到着してから1ヶ月間は、現地訓練が行われます。

交通事情(世界第2位の交通事故による死亡事故を誇る)、治安状況、ビザの申請等、ボツワナで2年間過ごす上での心構えや生きる術を学んでいます。アフリカでは、比較的平和と言われているボツワナですが、日本に比べると治安は悪く、気を張らして生活をしていかなければなりません。近年では治安も悪化傾向にあり、日が暮れたら出歩かないことは、徹底するように言われています。治安の悪い要注意地域も把握することができました。

そして、もう1つ重要な訓練の1つが、現地語であるツワナ語の勉強です。1日4時間のツワナ語レッスンをカリスマ教師からスパルタ指導を事務所で受けています。ボツワナでは、小学校4年生から英語で授業が始まるので、ほぼ全員が英語を話せます。仕事をする分には英語で支障は無



いのですが、日常会話では主に母国語であるツワナ語を使い人々は会話しています。ただ、会議中でも熱が入った時や外国人に話を聞かされたく無い時はツワナ語を使うようです。覚えてたの簡単な挨拶や日常会話を街で使うだけでも「どうしてツワナ語を話せるんだ？」ととても喜ばれます。

最初は、こんなローカル言語を話せるようになってもたった 200 万人のボツワナ人として話せないじゃないかと思ってしまいましたが、現地に順応した活動をしていく為には、大変有効なツールになっていくと思います。日本でも外国人の方にいきなり日本語で挨拶されるだけでも嬉しい気持ちになりますよね？これからも現地語と英語を平行して勉強して行きます。

ボツワナの柔道少年少女との出会いまでの道のり

柔道連盟の事務所は、ナショナルスタジアムの中にあります。と言っても、柔道連盟の事務所は、あって無いような物で、普段は、学校の教室やホールで練習しています。まだどこの学校で教えるのかも決まっていない状況で、8月に入ってから柔道連盟と話し合い決めて行きます。

2カ所の柔道をしている場所を見学に行きました。

1カ所目は、学校の教室に畳を敷き、道場になっていました。

2カ所目は、稽古の時だけ畳をホールに敷いて行っていました。畳と言っても、日本の畳のようなクッション性に優れた物で無ければ、もちろん床にスプリングも効いていません。片手でも持ち上げられる薄いマットのような畳です。

こちらでは、格闘技はとても盛んなのですが、柔道に関しては、認知度が低く、柔道に比べて盛んな空手やテコンドーとの区別がついてないようです。街で「柔道を知っている？」と話しかけてもポカーンとされるので、「本当にこの国に柔道はあるのか」と不安な時もありましたが、ようやくボツワナ柔道家に会えた時の嬉しさは一入でした。



ボツワナ見本市

ボツワナ見本市というのが、7月下旬に行われました。

各国の大使館や団体、会社ブース等を出して、各々の活動の紹介や体験企画を実施していました。ボツワナ JICA 事務所もブースを出していました。私も一日だけですが、柔道着を着てブースの前で柔道講座を行いました。礼法等を説明しただけですが、たくさんの方に集まっていただき、大変光栄に思いました。



柔道は1人ではできない競技です。相手がいるから自分を磨き高める事ができ、相手を尊重し、礼節を重んじる所に、柔道の教育的な価値があります。そういった柔道の良さも伝えて行ければ良いなと思います。目立つような演出はできませんし、堅い床の上でとても難しかったのですが、礼に対して凄く興味を持ってくれてとても嬉しかったです。

赴任までの道のり

現地訓練も終わり、いよいよそれぞれの任地へ旅立って行きます。4月中旬から70日間に渡り二本松訓練所で約170人と過ごした派遣前訓練、任国ボツワナにて同期隊員3人で受けた現地訓練。約3ヶ月の訓練生活を経て、ようやく1人での活動が始まろうとしています。これからは、全ては自己責任。今まで以上に気を引き締めて生活を送って行きたいと思います。

これから、明るい情報をどんどん発信して行きたいと思っておりますので、温かく見守っていただけると嬉しいです。よろしく申し上げます。

2013年 7月30日 青年海外協力隊 ボツワナ 柔道隊員 井坪 圭佑